

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市通町児童館
2	指定管理者	特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘
3	指定期間	平成27年4月1日から令和2年3月31日まで
4	施設の利用状況	《利用者数》 24,974人 (前年度比 101.2%) 平成30年度 24,688人 平成29年度 22,137人 平成28年度 23,634人
		《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 29,120千円 (26,664 千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
		()は前年度決算額
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ブログの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子どもの自由な選択を大切にし、日頃から主体的な活動への支援を行っている。定期的な行事「わくわくタイム」や「からだであそぼう」では遊びを通じた子どもの発達の増進に努めている。また、丁寧な保護者支援を心掛け、相談しやすい雰囲気を作ると同時に、学校や幼稚園、保育所や専門機関とも連携を深め、継続的な支援が行えるように努めている。そのほか、学区外の放課後子ども教室や地域の放課後等デイサービス事業所と連携し、合同研修や行事への参加などの事業を通して職員の学びを深めると共に、相談できる体制を作っている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘）による自己評価》

地域や諸団体との連携や子どもが活躍する場の定着の努力が、実を結び始めた感がある。

◇児童健全育成 「通町こどものまち」やユニコーンカフェなど、4年生以上の40名の子どもボランティアが中心となり、年間を通して13の行事を企画し活動を展開した。子ども同士の主体的な意見交換や行動力、チームワークを発揮し、児童クラブや自由来館の乳幼児親子も巻き込み活発な活動になった。また、小学生向けわくわくタイムは運動にクラブ、季節の体験など多様な遊びと交流を提供した。

◇子育て家庭支援 近隣保育園やデイケア施設、子どもにかかわる支援施設、家庭健康課との連携を強化した。地域子育て支援事業を念頭に、乳幼児親子の遊びや交流を毎月の定例行事として実施した。また祖父母の相談や本のおさがり市など広い視点で事業を展開した。

◇地域交流推進 地域22団体が（児童館が実行委員長）互いの特技を生かし「あそびでつながるまちづくり・てらまちフェスタ2019」を実施し、乳幼児親子から小中学生、高齢者まで500名余りが交流した。また、寺社や市民センター、地域住民、子育て支援クラブなどの協力を得て、花育食育、梅ジュースや干し柿作りによるふるまい餅など季節の体験や異世代交流を図った。

◇児童クラブ 登録人数増により、安全管理や細やかな対応を努力した一年であった。NPOの支援サポートに保育園や小学校、家庭健康課との情報交換、保護者様との個別の相談をもとにひとり一人の子どもの受け止めと育成を目指した。

《施設設置者（仙台市）による評価》

総合評価

児童館の取り組みについて地域から理解や協力が得られるよう、児童館だよりの配布やブログの小まめな更新、児童館前に行事のポスターを掲示する等、一年間を通して広報活動に努めた。実行委員長として企画運営に携わる「てらまちフェスタ」は6年目を迎え、参加団体・人数が共に年々増加するなど地域の一大イベントとして定着しており、児童館を中心とした地域交流が盛んになっていることが伺える。また、地域の方々の協力のもと「干し柿作り」や「梅ジュース作り」、「もちつき」等、昔からの手仕事を伝える伝承行事を開催しているほか、「通町・柏木ご近所会議」や「市民センター地域懇談会」等への参加を通して地域の子育て支援の諸団体や施設との交流を図っており、近隣地域を含めた地域交流を積極的に展開している点が評価できる。

子育て家庭支援事業では、保護者との日常的な会話からニーズをとらえて事業の計画や見直しを行い、乳幼児向けの定例行事の中で、防災や病気に関する講話やヘアカットの企画を取り入れ、参加者から好評を得ている。

児童健全育成事業では「子どもボランティア」の活動を中心に、子どもの自発的な活動を継続的に支援し、「こどものまち」や「ユニコーンカフェ」など、様々な行事で子どもの発想を具現化する支援を行った。異年齢の集団での遊びを通して、社会性や協調性、創造性を育てている。

S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課